




# 審査結果報告書

2022年 1月 17日

主査 氏名 岩 渕 和 也 

副査 氏名 阿 古 孝 哉 

副査 氏名 岡 本 浩 嗣 

副査 氏名 佐 藤 俊 哉 

1. 申請者氏名 : 須賀 裕樹

2. 論文テーマ : Status epilepticus suspected autoimmune: Neuronal surface antibodies and main clinical features  
(自己免疫機序の関与が疑われたてんかん重積状態における抗神経表面抗体と臨床的特徴の検討)

### 3. 論文審査結果 :

申請者は、2007~2020年に北里大学病院脳神経内科とその関連施設で取り扱い、発症時原因不明で自己免疫機序の関与が疑われた癲癇重積状態 (status epilepticus; SE) を呈した患者 137 症例を対象に、抗神経細胞表面 (neuronal surface; NS) 抗体陽性・陰性症例と臨床症状および神経画像 (MRI) 上の特徴との関連について後方視的に詳細な解析を行った。その結果、137 例のうち約 1/3 にあたる 44 例で抗 NK 抗体が認められ、それらでは先行する頭痛、精神・行動異常、不随意運動、髄液の炎症所見、随伴腫瘍の存在などと強く関連していた。抗体陽性例が特徴ある MRI 所見を必ずしも呈しないこと、一方、自己免疫性大脳辺縁系脳炎 (ALE) 型に側頭葉内側外に病変を示す ALE-Plus 型を呈した症例では抗 NS 抗体陰性の cryptogenic NORSE (new-onset refractory SE) という病型が多いことが判明した。本研究の知見は特定の SE の予後を左右する早期の免疫療法開始に対して重要な視点を提供すると考えられた。副査の阿古教授から研究デザインの妥当性、抗体陽性例に対する特別な治療の有無、岡本教授から発症当初~遷延後の画像から推定される神経病変と癲癇原性・治療抵抗性の関連について、佐藤俊哉教授から APE2 スコアの意義、画像の経時情報の必要性、抗 NS 抗体検出の信頼性およびスクリーニング系の改良に関して、主査 岩渕より抗体陰性例の免疫異常と前方視研究の展望に関する質問がなされ、申請者はそれぞれに概ね適切な回答を行なった。審査員一同は、これらの成果を高く評価し、すでに承認された申請条件審査の結果、研究期間における研鑽と発表論文内容も併せ、申請者が博士 (医学) の学位を受けるのに十分な資格を有するものと判定した。